

2023年3月期
決算説明資料

菊水ホールディングス株式会社
<https://kikusui-holdings.co.jp>

当社グループの紹介

P3～

2023年3月期 連結業績概要

P12～

2024年3月期 連結業績予想

P23～

● 会社概要 (2023年3月末現在)

社名(銘柄コード)	菊水ホールディングス株式会社(6912)	
設立	1951年(昭和26年)8月8日	
資本金	22億125万円(3月決算)	
発行済株式数	9,900,000株(1単元株数100株)	
事業内容	グループ会社の経営管理等	
大株主 (自己株式は含まず)	株式会社ケーティーエム	10.9%
	菊水取引先持株会	10.6%
	菊水電子工業従業員持株会	4.5%
	株式会社みずほ銀行	4.3%
	小林寛子	4.1%
	日本生命保険相互会社	3.6%
	アジア電子工業株式会社	3.5%
	ケル株式会社	2.6%
	株式会社三菱UFJ銀行	2.6%
	橋本幸雄	2.2%
代表者	代表取締役社長 小林一夫	
従業員数 (当社グループ)	322名(2023年3月末現在) []は前年比増減	
	研究開発	88名[- 3]
	生産・購買	89名[+ 3]
	営業	116名[+ 4]
	管理	29名[+ 1]

● 菊水グループ各社の拠点



●は海外代理店

菊水ホールディングス株式会社

本社 (神奈川県横浜市都筑区)

関連子会社

菊水電子工業株式会社(神奈川県横浜市都筑区)

2022年4月設立 連結 出資比率:100%

営業所:横浜、仙台、さいたま、名古屋、吹田、福岡(出張所)

菊水エムズ株式会社(山梨県南都留郡富士河口湖町)

2022年4月設立 連結 出資比率:100%

菊水貿易(上海)有限公司(中国 上海市)

2006年6月設立 連結 出資比率:100%

KIKUSUI AMERICA, INC.(米国カリフォルニア州トーランス市)

2004年10月設立 連結 出資比率:100%

フジテック株式会社(山梨県南都留郡富士河口湖町)

※菊水エムズ株式会社 子会社

1986年6月設立

沿革

1951
昭和26年

株式会社菊水電波設立
8月8日、東京都大田区駒込にて
資本金90万円、役員4名、従業員6名で発足
主要製品はラジオ用ダイヤル

創業者社長 小林 証
(当時の写真、右1番)

初期のダイヤル

創業時の建物

創業メンバー
小林正明 (相談役)、小林 証 (代表取締役)、尾崎伸道 (副社長)
渡辺正道 (取締役)、一柳敏彦、広島 勝ら

1957
昭和32年

ダイヤルから
測定器メーカー菊水へ
計測器のダイヤルの売上を上回る
OEMのトランスラジオも主産

低周波ディケード発振器
ORC39A
当社のディケード方式
なかなかの信頼性実績であった

ロングウェーブTRラジオ
TR-604
OEM製品としての
トランスラジオ

1961-62
昭和36~37年

菊水電子工業株式会社
へ社名を変更
計測器の生産と営業の両輪
経営による発展の道を進む

ダイオードカブトレーサ DS7A
半導体部品製造、インダクタ部品
製作、トランス部品製造、電圧
調整用電源装置製造開始

高圧電圧計 PV-107
一電圧計として
計測1000Vの電圧
10kVまで耐える

三軒江崎の移転

1971-74
昭和46~49年

創立20周年
第一次新社の年
名古屋、水戸に支店/代理店
電子計測機の導入

20周年記念の日本橋本店

1966-68
昭和41~43年

第一次販進の年
昭和41年11月、東京市東区東横田に
計測器部を設立し、計測器の生産と
営業の両輪による発展の道を進む
計測器の生産と営業の両輪による
発展の道を進む

計測器部
計測器部
計測器部

1981-82
昭和56~57年

米空軍との大型商談
オシロ7160台 (23億円) 1
台の商談として米空軍から1台
北米米空軍所発注

計測器で米軍の一番札
毎日新聞
初

一冊で載る毎日新聞 (1982)

一冊と載る毎日新聞 (1985)

1985-88
昭和60~63年

計測器業界初の快挙!

グッドデザイン産業機械部門
大賞を受賞した
オシロスコープ
COM3000シリーズ

オシロスコープ COM7000シリーズ
営業が歩みずとも広帯域で
どんどん法支が舞い込んだヒット製品

1989-91
平成元~3年

株式会社店頭公開
西東京営業所 開設
専属物流会社
ケイアールシー株式会社設立

1991年11月
株式を店頭市場に新規公開
公募による新株発行数：75万株
発行総額：2,330万円/1株

株式公開の頃の日本社 (川崎市中原区)
平成3年3月期 売上高112億円、従業員数386名であった

1989年6月
立川市に
西東京営業所
開設

2000-01
平成12~13年

ISO14001認証取得
計測器生産による製造業の中
心立位の確立を証する (ISO11)

4年連続2001年グッドデザイン賞受賞!

GOOD DESIGN AWARD 2001

計測器部
計測器部
計測器部

1995
平成7年

ISO9001 認証取得
当社公式ホームページ開設
全国営業拠点をオンライン化

1995年12月22日
品質管理システム
ISO9001 認証を取得
登録証番号:QA-1100

ホームページ開設
品質管理システム
ISO9001 認証取得
登録証番号:QA-1100

沿革

2002 平成14年
上海に駐在員事務所
中国でのサポート体制
構築EDI（電子商取引システム）
稼働開始

2005 平成17年
燃料電池評価技術に関する技術協力を
中国科学院大連化学物理研究所
(DICP) と締結
HD VFIの開発において
パルステック工業との協業を発表

2006 平成18年
創立55周年記念式典
中華人民共和国内、上海
紫水貿易（上海）有限公司
PSE法く電氣用品安全法

2009 平成21年
国テクトリオ社より
エアロフレックス社からアビオニクス製品の
日本販売代理店権を継承
中国拠点の合理化

2011 平成23年
コーポレートサイトの
デザイン（日本語ページ）を
全面リニューアル

2012 平成24年
EV自動車レース
（JEVRA、バインスEV
北関東選手権）

2013 平成25年
電力中央研究所
PCB（パワーコンディショナ）量産用試験設備
大容量交流電源PCRB1 DOOLEを納入
Amazon販売開始

2014-15 平成26～27年
交流電源PMX-A
マスコットキャラクタ
紫水貿易（上海）有限

2016-18 平成28～30年
ソリューション製品サイト
KIKUSUI magを開設
紙幣管理マンガ（ハイカワ）有限
株式会社前田洋行（セック）に委託
印刷センターを「紫水印刷センター」に移転

2019-21 令和1～3年
電氣安全規格試験マルチアナライザ
TOS8000シリーズ
本邦製造型ネットワーク電源
オーディオスピーカー 6000シリーズ

● 事業活動トピックス

<新製品>

<イベント>

- ・PCR-LE、PWXラインアップ追加
- ・Milla-E20（電気自動車(EV)急速充電器）



2012

- ・東海営業所 新社屋竣工

- ・TOS9213AS(太陽光パネル用耐電圧・絶縁抵抗試験器)
- ・PLZ-4W(電子負荷)スマートラックの拡充



2013

- ・TOS7210S(PID絶縁試験器)
- ・TOS5200(耐電圧試験器)



2014

- ・PMX-Aシリーズ(小型直流電源)



2015

- ・PLZ-5Wシリーズ(電子負荷)



2016

- ・富士勝山事業所にデモルーム開設
- ・Webサイト「KIKUSUI mag」開設

- ・PWR-01シリーズ(直流電源)



2017

- ・本社を横浜市都筑区茅ヶ崎中央へ移転

- ・PCR-WE/WE2シリーズ(交流電源)



2018

- ・菊水創発センター リノベーション工事完了
- ・KIKUSUI AMERICA, INC. トーランス市に移転

- ・TOS9300シリーズ(電気安全規格試験マルチアナライザ)



2019

- ・ドイツ デュッセルドルフに駐在員事務所を開設

- ・PAN-Eシリーズ(直流電源)



2020

- ・PCR-WEA/WEA2シリーズ(交流電源)
- ・PCJシリーズ(交流電源)
- ・TOS9300 ラインアップ追加



2021

- ・菊水貿易(上海)有限公司 北京分公司を開設
- ・創立70周年記念 昭和レトロ計測器ブルートゥーススピーカー3機種発売
- ・会社分割による持株会社体制へ移行

- ・PCR-WEA/WEA2 シリーズ(交流電源) フロントパネル変更
- ・ハイレートバッテリーテスタ PFX2731S



2022

- ・菊水電子工業株式会社及び菊水エムズ株式会社2社を承継会社とする吸収分割

● ビジネスモデル

当社グループの独自性

計測技術と電源技術の両方を有していること！

(微小から大電流まで、電気エネルギーを高精度で制御、測定する技術・ノウハウ)

[顧客]



メーカー

(電機・電子機器、電子部品、自動車)

研究

開発・設計

生産

検査

メンテナンス

公的研究所・機関
教育機関(大学等)

工業試験所
(テストラボ)

公的機関
(防衛、警察等)

グローバルに販売展開！

電子計測器

電気のモノサシ、産業の「マザーツール」として、家電製品、OA機器、電子製品などの「安全性」や「正確性」の測定・試験に使用されます。近年は、自動車のノイズ耐性(EMC)に関する試験、またEV用バッテリーの絶縁性能試験の測定需要が高まっています。

耐電圧試験器



EMC試験器



電源機器

研究開発や製造工場などで、安定した電力(直流・交流)を供給する設備として使用されます。近年は、宇宙産業・電子部品市場での評価試験や製造設備用として直流電源、ハイブリッドカー・電気自動車の評価に必須となる電子負荷装置(電力を消費する装置)、パワーコンディショナーなどの評価に必要な交流電源の需要が高まっています。

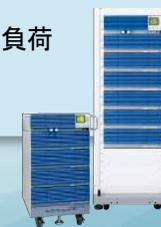
直流電源



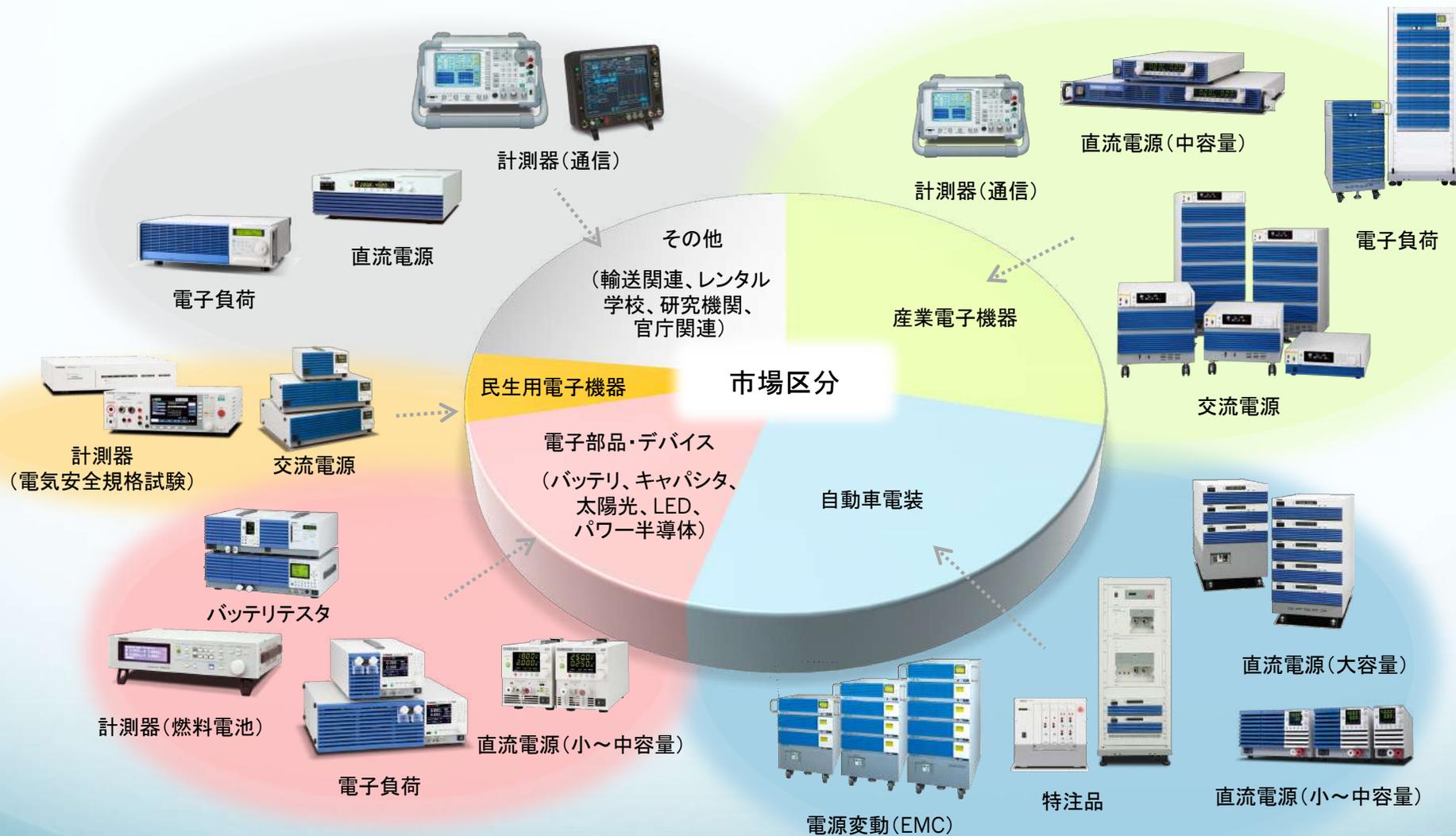
交流電源



電子負荷



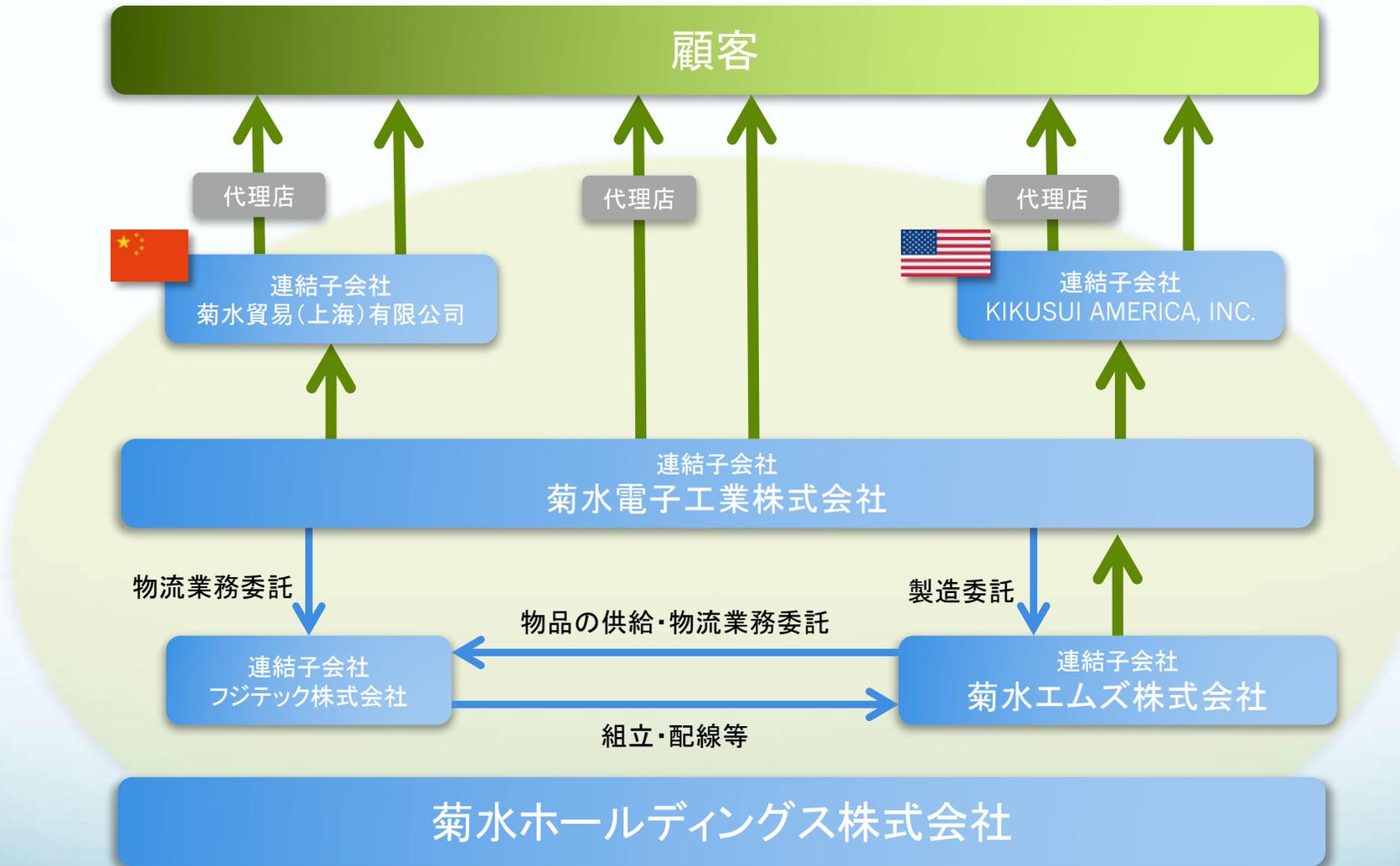
● 市場と製品



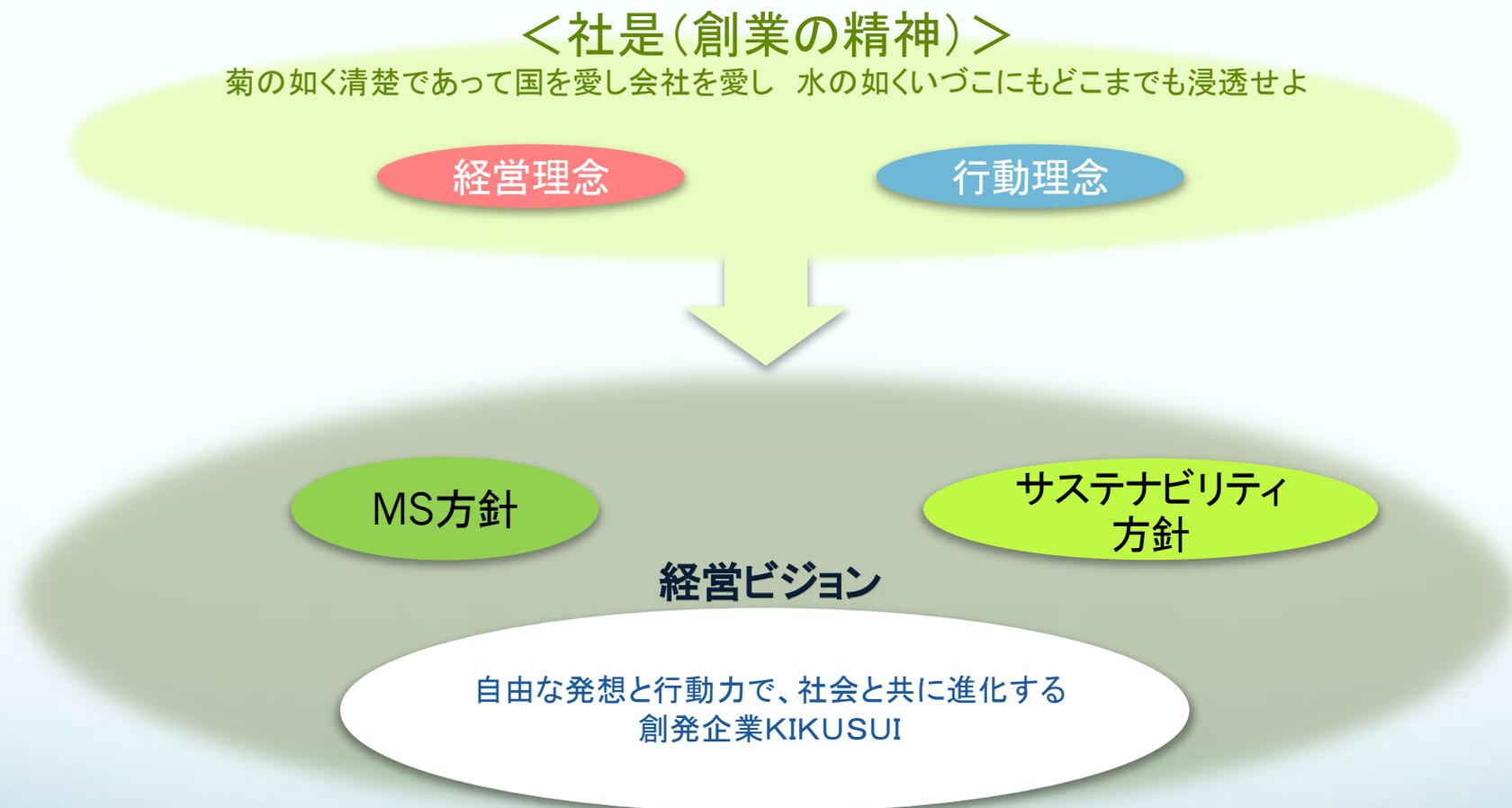
(2023年3月期実績による)

● 事業系統図

← 製品

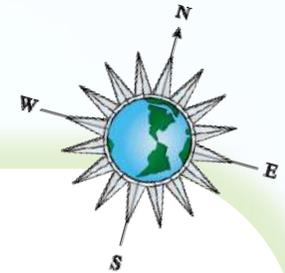


- コーポレートステートメント



2023年3月期 連結業績概要

2023年3月期 連結業績概要



● 決算サマリー

- 売上高・経常利益・親会社株主に帰属する当期純利益

売上高



単位: 百万円

経常利益・親会社株主に帰属する当期純利益



経営の概況

当社グループが属する電気計測器業界においては、世界各国でのカーボンニュートラル、SDGs達成に向けた取り組み等により、自動車関連市場、電池関連市場及び半導体関連市場、また、5G(第5世代移动通信システム)関連市場など、グローバルで需要の回復が進んでおります。

このような状況の中、当社グループは、好調に推移した受注環境のもと、グローバル需要を捉えるべく、重点市場である航空宇宙、電池、自動車のCASE(コネクテッド、自動運転、シェアリング、電動化)、サーバー・ICT(情報通信技術)関連市場へ顧客ニーズに合わせたソリューション提案営業を積極的に展開し、感染拡大防止に対応したオンライン商談やWebを活用した販売促進活動等を進めるなど売上拡大に努めるとともに、原材料の長納期化に対応すべく部品調達活動、生産活動にも努力を重ねてまいりました。

この結果、当連結会計年度の売上高は、米国、中国を中心に海外売上高が好調に推移したことにより、120億6千6百万円(前年同期比19.8%増)となり、過去最高を達成いたしました。

損益面におきましては、原材料価格の高騰及び円安による仕入コストの上昇等はあったものの、売上総利益の増加により、営業利益15億3千1百万円(前年同期比48.2%増)、経常利益15億2千8百万円(前年同期比40.5%増)となりました。また、親会社株主に帰属する当期純利益10億7千2百万円(前年同期比51.2%増)となり、過去最高を達成いたしました。

2023年3月期 連結業績概要

● 損益計算書

	22年3月期		23年3月期		前年同期比	
	金額(百万円)	対売上構成比(%)	金額(百万円)	対売上構成比(%)	増減額(百万円)	増減率(%)
売上高	10,076	100.0	12,066	100.0	1,990	19.8
売上原価	5,033	50.0	6,180	51.2	1,147	22.8
売上総利益	5,042	50.0	5,886	48.8	843	16.7
販売費及び一般管理費	4,009	39.8	4,354	36.1	345	8.6
営業利益	1,033	10.3	1,531	12.7	497	48.2
営業外収益	82	0.8	126	1.0	43	52.3
営業外費用	28	0.3	128	1.1	100	350.5
経常利益	1,087	10.8	1,528	12.7	440	40.5
特別利益	—	—	15	0.1	15	—
税金等調整前当期純利益	1,087	10.8	1,544	12.8	456	42.0
法人税、住民税及び事業税 法人税等調整額	378	3.8	471	3.9	93	24.6
親会社株主に帰属する 当期純利益	709	7.0	1,072	8.9	363	51.2
1株当たり当期純利益	85.13円		128.36円			

※単位未満の金額は切捨て、百分率は四捨五入。

2023年3月期 連結業績概要

● 売上高と経常利益

- 売上高: 12,066百万円
【前年同期 10,076百万円】+19.8%
- 経常利益: 1,528百万円
【前年同期 1,087百万円】+40.5%
- 親会社株主に帰属する
当期純利益: 1,072百万円
【前年同期 709百万円】+51.2%



単位: 百万円



Point



好調に推移した受注環境のもと、グローバル需要を捉えるべく、重点市場である航空宇宙、電池、自動車のCASE(コネクテッド、自動運転、シェアリング、電動化)、サーバー・ICT(情報通信技術)関連市場へ顧客ニーズに合わせたソリューション提案営業を積極的に展開し、感染拡大防止に対応したオンライン商談やWebを活用した販売促進活動等を進めるなど売上拡大に努めるとともに、原材料の長納期化に対応すべく部品調達活動、生産活動にも努力を重ねてまいりました。

この結果、当連結会計年度の売上高は、米国、中国を中心に海外売上高が好調に推移したことにより、120億6千6百万円(前年同期比19.8%増)となり、過去最高を達成いたしました。

損益面におきましては、原材料価格の高騰及び円安による仕入コストの上昇等はあったものの、売上総利益の増加により、営業利益15億3千1百万円(前年同期比48.2%増)、経常利益15億2千8百万円(前年同期比40.5%増)となりました。また、親会社株主に帰属する当期純利益10億7千2百万円(前年同期比51.2%増)となり、過去最高を達成いたしました。

2023年3月期 連結業績概要

● 製品群別売上概況

- 電子計測器：3,230百万円
【前年同期 2,369 百万円】 **+36.3%**
- 電源機器：8,377百万円
【前年同期 7,285 百万円】 **+15.0%**
- 修理・校正サービス等：458百万円
【前年同期 420百万円】 **+9.2%**

Point



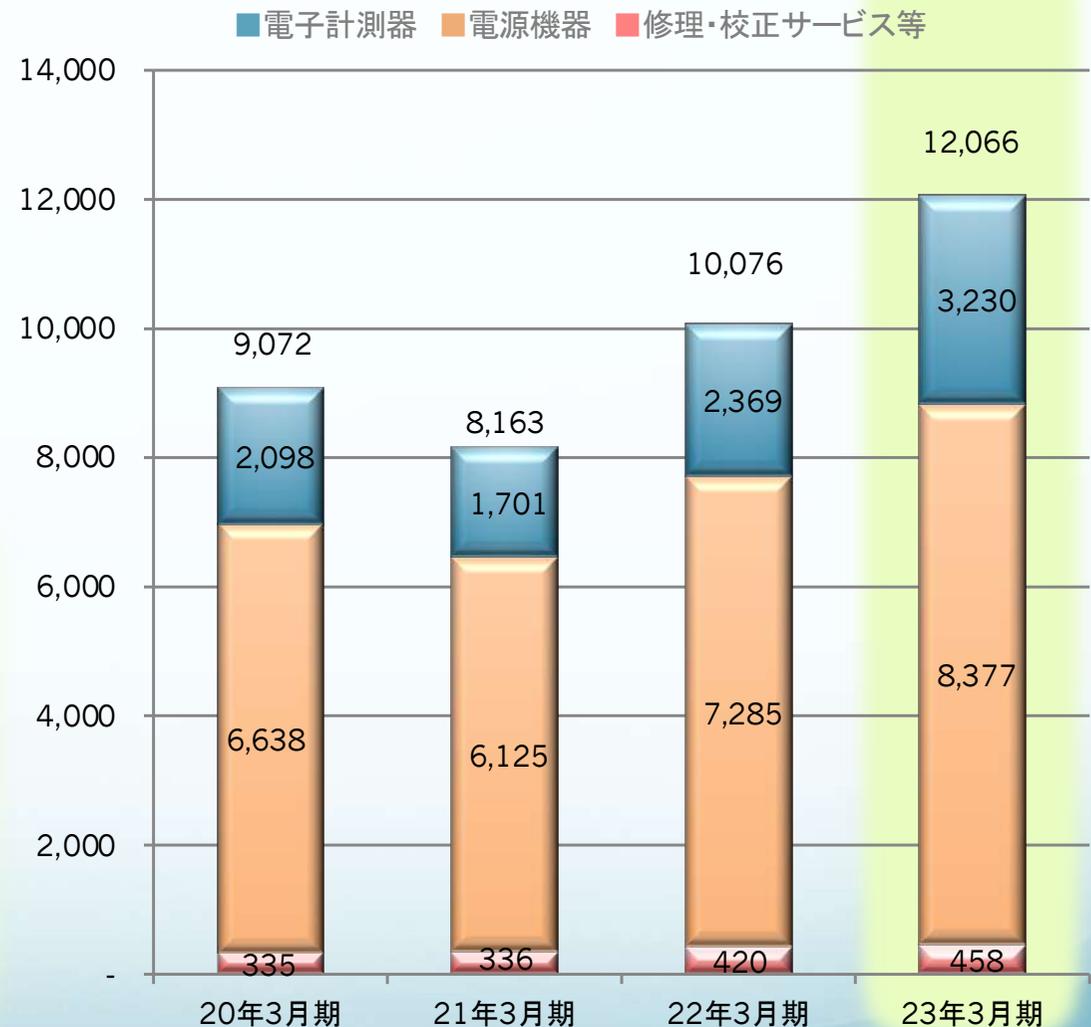
《電子計測器群》

電子計測器群では、航空機器用電子機器の測定器に動きは見られましたが、低調に推移いたしました。安全関連試験機器は、EV(電気自動車)用バッテリーの耐電圧・絶縁試験抵抗試験器として電池関連市場並びにパワー半導体関連市場向けに好調に推移いたしました。

《電源機器群》

電源機器群では、直流電源は、宇宙産業市場、車載関連市場及び半導体関連市場への評価試験や製造設備用として好調に推移いたしました。交流電源は、EV関連市場、半導体関連市場及びエネルギー関連市場への評価試験や製造設備用として好調に推移いたしました。電子負荷装置は、EV関連市場及びエネルギー関連市場への評価試験用として好調に推移いたしました。

単位：百万円



2023年3月期 連結業績概要

● 製品群別売上高構成比

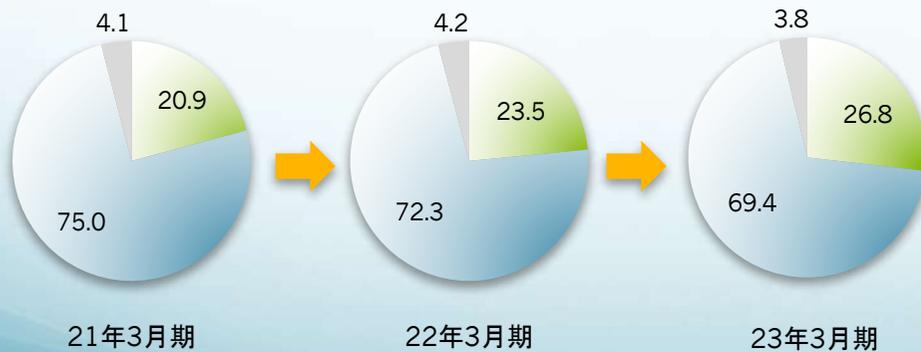
- 電子計測器 : 26.8%
【前年同期 23.5%】 +3.3%
- 電源機器 : 69.4%
【前年同期 72.3%】 △2.9%
- 修理・校正サービス等 : 3.8%
【前年同期 4.2%】 △0.4%

Point

電子計測器の売上の伸長により、電子計測器の構成比率が上昇しました。

- 電子計測器
- 電源機器
- 修理・校正サービス等

単位: %



● 製品群別売上総利益率

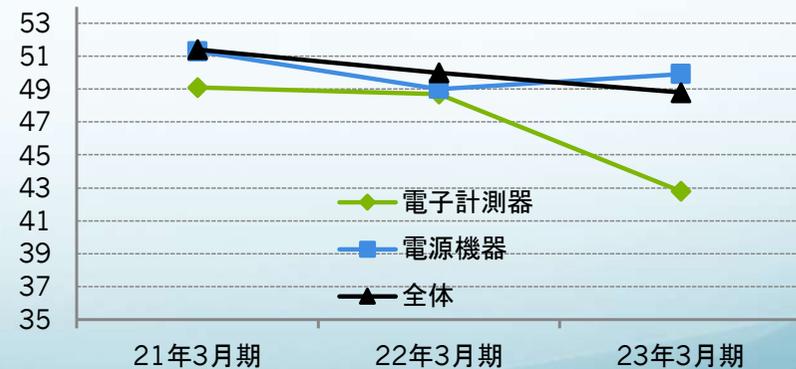
- 電子計測器 : 42.8%
【前年同期 48.7%】 △5.9%
- 電源機器 : 49.9%
【前年同期 49.0%】 +0.9%

売上総利益率 : 48.8%
【前年同期 50.0%】 △1.2%

Point

部品調達価格等仕入れコストの上昇により売上総利益率が減少しました。

単位: %



2023年3月期 連結業績概要

● 海外売上高

- 北米: 931百万円
【前年同期 700百万円】+33.0%
- 欧州: 757百万円
【前年同期 455百万円】+66.4%
- 中国: 2,706百万円
【前年同期 2,104百万円】+28.6%
- その他アジア: 1,394百万円
【前年同期 1,238百万円】+12.5%
- その他の地域: 33百万円
【前年同期 17百万円】+93.7%

海外販売高合計: 5,824百万円
【前年同期 4,516百万円】 +28.9%

Point



米国では、宇宙産業市場及び設備投資が活況な半導体関連市場や5G関連市場への直流電源並びにグリーンエネルギー政策により需要が拡大しているエネルギー関連市場への交流電源が好調に推移いたしました。
欧州では、車載関連市場への直流電源が好調に推移いたしました。
アジアにおいては、中国では、ロックダウン期間中は物流が混乱しましたが、ロックダウンの解除と共に徐々に解消されました。また、自動車のEV化が進む中、電池関連市場への安全関連試験機器及び車載関連市場や設備投資が増加している半導体関連市場への直流電源がそれぞれ好調に推移いたしました。一方、韓国では、電池関連市場への安全関連試験機器が好調に推移いたしました。東南アジアでは、EV関連市場及びIT(情報通信)関連市場への交流電源や電子負荷装置が好調に推移いたしました。



2023年3月期 連結業績概要

● 研究開発投資 (対売上高比率)

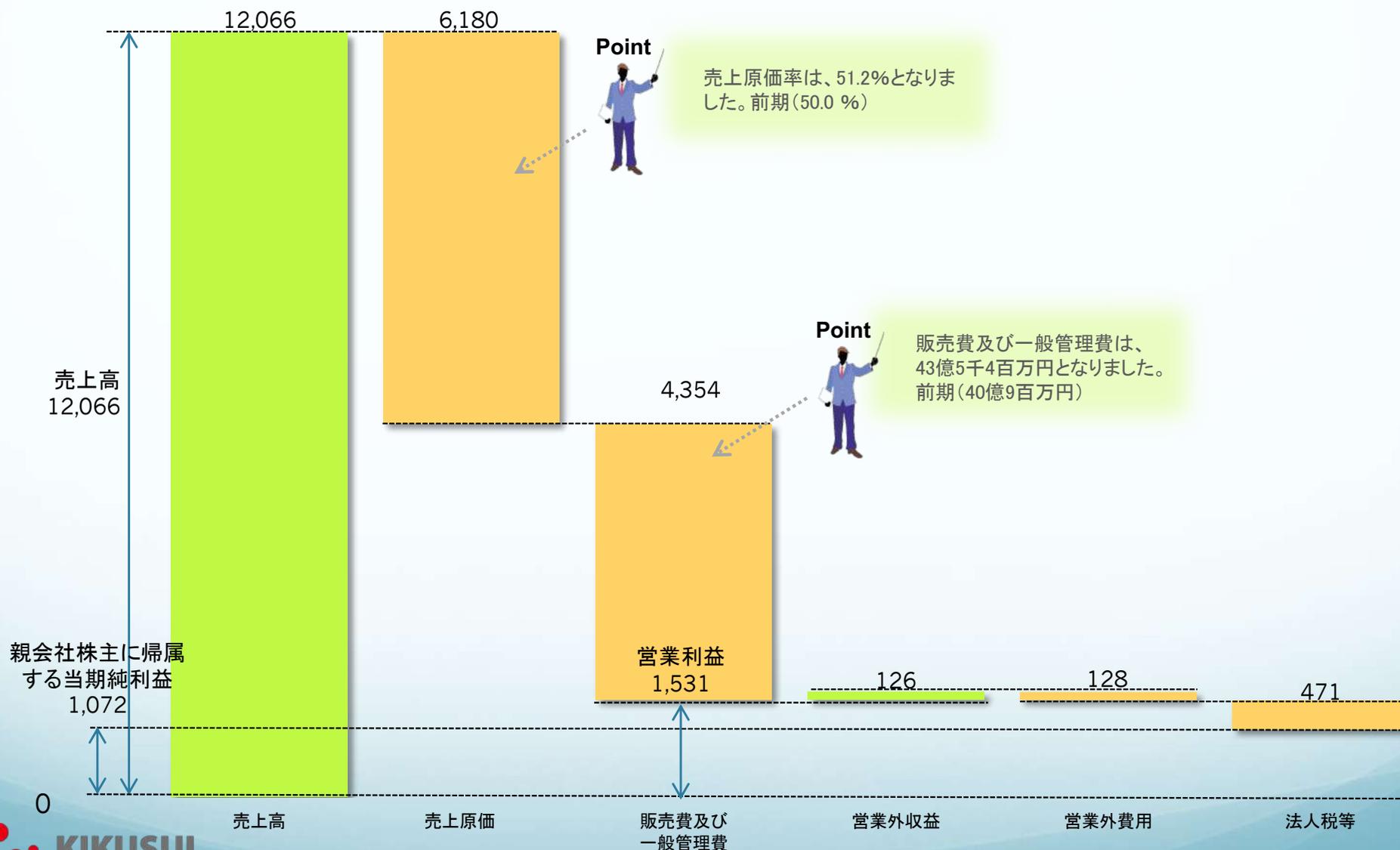
- 1,279百万円 (10.6%)
【前年同期 1,273百万円 (12.6%)】



2023年3月期 連結業績概要

● 損益の概況

(百万円)



2023年3月期 連結業績概要

● 貸借対照表

単位:百万円

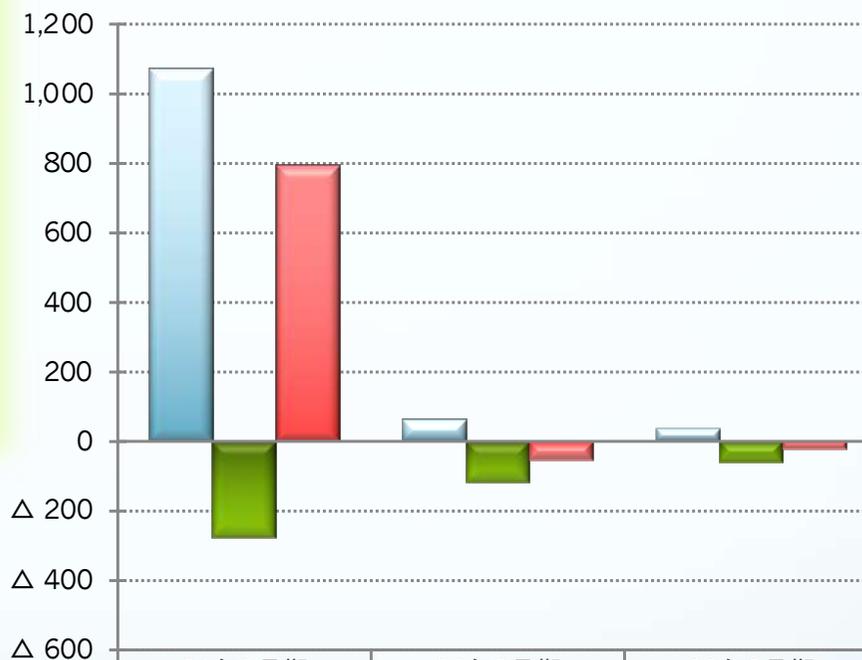
【資産の部】	22年3月期	23年3月期	増減
流動資産合計	8,186	9,483	1,296
固定資産合計	5,264	6,001	736
資産合計	13,451	15,484	2,033
【負債の部】	22年3月期	23年3月期	
流動負債合計	1,960	2,495	534
固定負債合計	573	917	343
負債合計	2,534	3,412	878
【純資産の部】	22年3月期	23年3月期	
資本金	2,201	2,201	0
資本・利益剰余金	8,531	9,367	836
自己株式	△774	△760	14
その他の包括利益累計額合計	959	1,263	304
純資産合計	10,917	12,072	1,154

2023年3月期 連結業績概要

● キャッシュ・フロー

【CF計算書】 単位:百万円	21年3月期	22年3月期	23年3月期
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,070	63	37
投資活動によるキャッシュ・フロー	△277	△119	△61
財務活動によるキャッシュ・フロー	△195	△170	△254
現金及び現金同等物の増減額	623	△178	△263
現金及び現金同等物の期首残高	2,464	3,088	2,909
現金及び現金同等物の期末残高	3,088	2,909	2,646

単位:百万円



	21年3月期	22年3月期	23年3月期
■ 営業CF	1070	63	37
■ 投資CF	△ 277	△ 119	△ 61
■ フリーCF	792	△ 55	△ 24

Point



営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前当期純利益の計上等による資金の増加が、棚卸資産の増加等による資金の減少を上回り、3千7百万円の収入となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得等による資金の減少が、有価証券の売却等による資金の増加を上回り、6千1百万円の支出となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金の支払い等により、2億5千4百万円の支出となりました。

現金及び現金同等物は、前連結会計年度の期末残高に比べ、2億6千3百万円減少し、26億4千6百万円となりました。

2024年3月期 連結業績予想

2024年3月期 連結業績予想

	23年3月期	24年3月期		
	通期実績(百万円)	通期予想(百万円)	前期比増減額(百万円)	前期比増減率(%)
売上高	12,066	12,100	34	0.3
営業利益	1,531	1,550	19	1.2
経常利益	1,528	1,550	22	1.4
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,072	1,080	8	0.7

	23年3月期	24年3月期	
	通期実績(円)	通期予想(円)	前期比増減額(円)
1株当たり 配当金	38.00	38.00	0.00

本資料における注意事項

本資料は、2023年3月期決算の業績に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資を勧誘することを目的としたものではありません。また、本資料は2023年5月12日現在のデータに基づいて作成されております。本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点の当社の判断であり、その情報の正確性、完全性を保証し、又は約束するものではなく、今後予告なしに変更されることがあります。

[本資料および当社IRに関するお問い合わせ先]

菊水ホールディングス株式会社 総務部 IR担当

TEL:045(482)6912 E-mail:ir@kikusui.co.jp URL:<https://kikusui-holdings.co.jp/>